

外出支援サービス事業

社会福祉法人 村山市社会福祉協議会
〒995-0035 村山市中央一丁目5番24号

助成事業の概要

村山市では現在、高齢化率が31%を超えており、市全域において歩いて行ける距離に買い物できる店や病院等は少なくなっているだけでなく、冬期間の移動は容易ではありません。このような現状から、本会では、独自のサービスとして、既存のサービスに該当しない外出困難な住民の方々を対象とした「外出支援サービス事業」を実施しました。この事業では新たなインフォーマルサポートの構築を目指して、村山市内にある企業等、外出支援を行うサービス提供者と協働し、総合的な外出支援のあり方について調査検討。単に送迎を行うだけでなく、閉じこもりの予防や生きがいづくり、集団での外出の機会を確保し、利用者同士が交流できる場を確保すること、地域での孤立を予防することを目指しました。

事業の成果

◆外出支援サービスあり方検討会（以下、検討会）の成果について

高齢化に伴う交通弱者や買い物難民の解消、公共交通機関の利用が困難な住民の外出支援にかかわる円滑なサービス提供について関係機関が協議することをねらいとして、情報交換による現状の把握、具体的な課題の抽出、具体策の検討を行いました。委員は移動サービスを提供しているNPO法人、市内タクシー会社等の民間組織、行政関係者、商工会、ふれあい・いきいきサロンの代表者等で構成し、全2回の検討会を実施しま

した。

検討会では、地域住民の事例発表として、18年前に無医村になったことをきっかけに月1回、住民同士がジャンボタクシーを利用して割勘で通院を行い、帰りにはなじみの店で食事や昼寝、買い物に立ち寄るなど、地域住民が自立の精神で外出を続けている事例を報告していただきました。これを参考に外部資源との協働により持続可能な外出方法の提案として、「わいわいタクシー事業」をモデル的に取り組むこととしました。わいわいタクシーとは近隣住民同士で外出の目的や行き先別にグループを作り、タクシーに割勘で相乗りして出掛けるものです。モデル地区での説明会では作成したパンフレットや視聴覚機材を活用することで事業について住民の理解を深めて頂くことができました。また、わいわいタクシーの経過や各団体における外出支援の現状については「外出手段の確保だけでなく、外出先の確保も必要ではないか」という課題が明確になりました。そこで、高齢者の閉じこもり予防と生きがいづくりのための外出拠点を整備することをねらいとした「街なかサロン事業」を発展的に実施することとなりました。これについては、街なかサロン実行委員会を別に立ち上げ、商店街2団体、建築士会、製材店、看板屋等を委員としてご協力を仰ぎ、65店舗に協力店についてのアンケート調査を実施しました。

成果の広報、公表

今回開催した検討会の取り組みや事例発表とし

て取り上げた乗り合いタクシーで利用する「深沢方式」について、山形新聞（平成 24 年 11 月 2 日、11 月 4 日）に掲載され、村山市内だけでなく、広く周知を図ることができました。また、市民と市長の座談会である「地域の市長室」では高齢者の交通手段について、話し合われるなど外出支援の必要性について意識が高まっています。モデル地区を指定し試験的に取り組んできたわいわいタクシーについては、ふれあい・いきいきサロン代表者会議をはじめ各種会合など、市内全域の関係者に事業の成果についての広報に努めています。「街なかサロン事業」については、市報を通して街なかサロン開催についての PR 及び協力店に掲載するオリジナルの看板やステッカーのデザインを募集。また、商店街 65 店舗に事業の実施要項、アンケート調査結果を配布し取り組みについて公表しました。

■ 今後の展開

わいわいタクシーについては、今後も外部資源との協働により、より良いサービスとして継続的に気軽に利用できるよう取り組んでいきます。街なかサロンについては、6 月よりの実施を目指して協力店舗内に休憩スペースの確保、オリジナルベンチや福祉に関する情報ファイル等を設置する予定です。また、商店街全体で福祉の情報提供や相談といった対応ができるよう「街なかコンシェルジュ（案内人）養成講座を企画しております。誰もが安心して暮らせる街づくりの実現を目指します。